

校名：富山大学人間発達科学部附属中学校

所在地：〒930-8556 富山県富山市五艘 1300

電話番号：076-445-2806

記載日：平成 28 年 5 月 20 日

記載者：有島 洋之

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

1 校訓

自分で考え 自分で計画し 勇気をもって実践しよう
己にうちかち 他を愛し 真善美を求めよう

2 教育方針

- (1) 高い知性と豊かな情操を備え、強い意志をもって真・善・美を追求する人間を育成する。
- (2) 思慮に富み、善悪の判断を誤らず、誠実・勤勉で、自主性をしっかり身に付けた人間を育成する。
- (3) 教師や友人との親和を重んじ、共同社会における自らの立場と使命を自覚し、社会の有能にして望ましい形成者となる人間を育成する。
- (4) 明朗活発な気性と堅忍持久の精神をもって、志すところを貫徹してゆく実行力を備え、強健な身体をもつ人間を育成する。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

- 1 先進的教育モデル開発のため、毎年度、人間発達科学部との共同研究プロジェクトを積極的に推進し、実践的な教育方法の研究を実施している。学習指導に関わる共同研究を通して、生徒の学習意欲や学力を高めるための効果的な方法を明らかにするため、学部と附属学校園の教員が研究テーマを出し合い、グループごとに研究活動を進めている。10以上のグループ研究を実施し、例年、参加者も延べ100名を超える。研究の成果は、報告書として冊子にまとめ配付し、またウェブ上にも公開することで、附属学校園以外の教員にも広く活用できるようにしている。
- 2 今日的な教育課題を踏まえた研究主題を設定し、研究主題解明に向けて教育研究協議会を継続的に行うとともに、その成果を研究紀要にまとめ、県内外に発信している。また、教育研究協議会は、教員免許状更新講習、11年次教職員研修の講座としても認められており、多くの研修受講者を受け入れ、研究（研修）の先導的な役割を果たしている。
- 3 大学・学部の教員が、学校行事や教育研究協議会等に参加するシステムが構築されている。具体的には、毎年度、人間発達科学部の教員が、審査員として合唱コンクールに参加し、審査、講評、合唱指導を行っている。また、指導助言者として教育研究協議会に参加し、それぞれの教科部会で、専門性を生かした指導助言を行っている。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

- ◎ 地域における学校教育のセンター的役割を果たすとともに、富山県内教育諸機関と連携し、教

育理論を実践する場や実践的研修の場を提供するなど、研究活動の活性化を図っている。具体的には、富山県内の公立小中学校の校内研修へ講師を派遣し、学習評価問題や学習指導案の作成について助言を行うことで、地域の学校の教育改善に貢献している。また、富山県教育委員会と連携して、校内研修活性化研修会の提案授業等を行っている。

1 研修の共有、共同の研究

①〔他校へ呼んでもらう〕

- 他校の校内研修に呼んでもらい、助言する。
- 著名人や指導主事等を招聘するよりも気軽に。
- 短時間でも、県内(外)どこへでも、出張する。
- 簡単な申し込みで行く。(メールや電話で予約)

②〔本校に来てもらう〕

- 本校の校内研修(代表者授業とその研修会)を公開し、他校の教員に参加してもらう。
- 研究協力者として研究室に来てもらう。
- 日々の学習指導の悩みに答える。

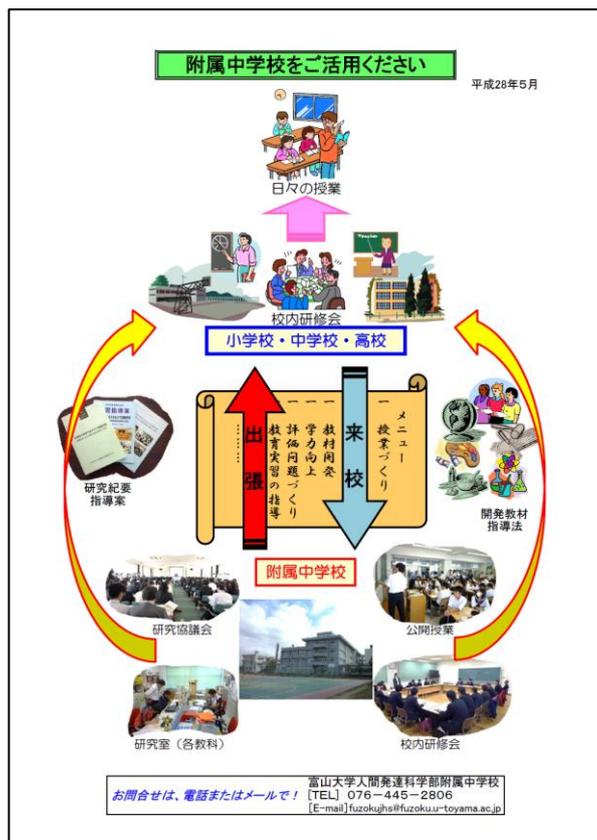
2 専門性を生かした内容での援助、お手伝い

① 授業づくり

- 日々の授業(板書計画、教材開発、ワークシートの工夫)の手伝い
- 学校訪問前の指導案づくり、検討の手伝い
- 苦手分野がある教員への支援(小学校理科、外国語活動等)

② 評価問題の作成(分析)方法

③ 教育実習生への指導方法



附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

附属学校の使命としては、

- 1 教育実践の研究校としての使命
- 2 教育実習の実習校としての使命
- 3 地域のモデル校としての使命

以上の三つを考えている。「1 教育実践の研究校としての使命」「3 地域のモデル校としての使命」については、これまでに書いてきたとおりである。「2 教育実習の実習校としての使命」については、大学・学部と連携しながら、毎年度積極的に教育実習生を受け入れている。15日間の実習では、教育実習生としての心得、授業や生徒の生活を観察する視点、学習指導案の作成方法、教育実習録の記入とその意味等の指導を重点とし、教育現場に対する理解を深めている。

これからも、附属学校の存在意義を意識しながら、

- ① 附属中の研究や実践をこれまで以上に広く知ってもらい、学習指導に生かしてもらう。
- ② 附属中の研究内容や教員の専門性を生かして、他校の教員の手助けを行う。
- ③ 附属中の存在や教員の力量を積極的に発信していく。

以上のことを通して、熱心な附属(の教員)、役に立つ附属(の教員)、身近な附属(の教員)であることを他校の先生方や県教育委員会、市町村教育委員会、そして地域にアピールしていきたい。